やまのべ

議会だより

創る、繋ぐ。子どもたちが誇れるまち

2026 10

令和8年10月28日発行

No.134



議会報告会「未来を話す会」よりよい町づくりのために …… 2～5
定例会 令和7年度の主な事業 …… 6～7
決算特別委員会 暮らし向上にどう生かされたか？ …… 8～9
議案審議 より良いまちづくりを目指して …… 10～11
一般質問 町政のここはどうする？ …… 12～14
議会活動報告 新しいまちへの挑戦 …… 15～17

写真／やまのべまるごと夏祭り（関連記事 18ページ）

山辺町議会ホームページはこちら

発行／山形県山辺町議会
編集／広報常任委員会
Eメール：gikai@town.yamanobe.yamagata.jp
〒990-0392 山形県東村山郡山辺町緑ケ丘5番地
TEL.023-667-1117 FAX.023-667-1112

●発行／山形県山辺町議会 ●編集／広報常任委員会
〒990-0392 山形県東村山郡山辺町緑ケ丘5番地 ○印刷／佐藤庄メディアプラス

山辺町地域おこし協力隊からメッセージをいただきました



佐々木（ささき） 春香（はるか）さん

こんにちは！今年度４月より山辺町の地域おこし協力隊として着任しました、佐々木春香です。作谷沢地区で花卉（き）栽培の担い手となることを目指し、山間部の畑で日々活動しています。

着任前は東京都内の生花店に５年間勤務し、その後、故郷・宮城県で６年間、花屋として独立して活動してきました。花屋の経験を生かし、土地によって生まれる「産地の色」や一次産業の大切さを、50年後、100年後へつないでいけるよう活動していきたいと思います。



原島（はらしま） 悠輔（ゆうすけ）さん

こんにちは。山辺町の温かい皆さまに支えられながら、地域おこし協力隊として花卉（き）栽培に励んでいます。原島です。日々の活動の中で、この町の豊かな土壌と自然の素晴らしさを肌で感じています。今後は、自分が育てた草花を通じて山辺町の魅力を広く発信し、農業の活性化や地域の賑わいづくりに貢献できるよう、精一杯取り組んでまいります。これからの活動を温かく見守っていただけると嬉しいです。

表紙の説明



やまのべまるごと夏祭りが8月11日『踊って食べて笑う！山辺のアツい夏』と題し、山辺駅前で行われました。

当日は午後2時からやまのべグルメ屋台・縁日ブースがオープン。午後6時の開会後、間もなく盆踊り大会がスタートし、山形県出身の歌手・工藤綾乃さんによるスペシャルライブなど、とても賑やかな一日となりました。

これまでは山辺小学校グラウンドで行われていた盆踊り。ここ数年は雨のため中止が続き、久しぶりの盆踊りでした。そのせいか、踊り手たちからはとても元気なかけ声が飛び交っていました。

街の魅力を「まるごと」詰め込んだ特別な一日になりました。

編集後記

実りの秋を迎え、旬の果物を味わえる喜びと、食の恵みに感謝する季節となりました。一方、大地震や豪雨災害により、収穫の喜びを失い、厳しい生活を余儀なくされている方々もいます。被災された皆さまに心を寄せ、一日も早い復旧・復興を願いつつ、食の恵みを分かち合う支援の大切さを感じています。自然災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。今一度、ご家庭や地域の「備え」を見直してみませんか。

議会報告会では、町の未来について、参加者からたくさんのご意見をいただきました。地域で人と人とのつながりを大切にすることで、新しい発想や地域の力が生まれます。皆さんの声をこれからの町づくりに生かせるよう、議会も研究を重ねながら、より身近で活気ある議会を目指してまいります。

村山 幸一 記

■発行責任者
議長 武田 啓一郎
■広報常任委員会
委員長 竹俣 朋
副委員長 村山 幸一
委員 遠藤 真由美
委員 渡邉 裕二
委員 佐藤 利和
委員 日野 一春

議会だよりがカラー写真で閲覧できます。

未来を話す会

第16回議会報告会

テーマ「ずっと暮らしたいまちにするためには」

ご参加いただきありがとうございました

未来を話す会（第16回議会報告会）を、役場３階本会議場にて、７月23日午前10時から開催しました。参加された16名の方から、『子ども子育てを取り巻く環境は』『女性が元気なまちへ』『議員のなり手不足』の３つのサブテーマに沿って、貴重なご意見をいただきました。

サブテーマ① 「子ども子育てを取り巻く環境は」



海野　幸司さん
（山辺ロータリークラブ）

学童クラブなど、子どもたちを受け入れる施策と子育てしやすい環境の構築や未来への投資が必要だと思う。



遠藤　恵さん
（やまべ学童クラブ）

やまべ学童クラブは６年生まで受入れを行っていて、ホームページにも掲載している。今年度は町民体育館をお借りし、広い施設で自由な遊びの選択をしながら保育できている。



荒木　哲夫さん
（山辺町民生委員児童委員協議会）

学童クラブの受け入れについて、統一した形での発信が重要に感じる。行政の力も必要ではないか。



武田　真也さん
（山辺町青少年育成推進員）

近隣市町では行政主体で６年生まで受け入れている学童クラブがあると聞いた。議会からも働きかけて欲しい。



渡邊　吉則さん
（山辺小学校 PTA）

子どもたちだけで集まって遊ぶ場所が町内には少ない。自由に出入りできる公共施設があればいい。



佐藤　光之さん
（山辺町青少年育成推進員）

「魅力ある教育ができる町に人が集まる」と聞いたことがある。ほかの自治体にはない教育を山辺が力を入れてやってみてはどうか。



稲村　汐さん
（図書ボランティア「てんこもり」）

子どもの預け先がなく困惑してしまう。子育てを手伝ってくれる大人が集まって、働くお母さんが安心できる環境が整えばいいと思う。



川村　陽子さん
（図書ボランティア「てんこもり」）

子育てに関し行政の介入は大事だ。子育てしやすい教育も重要。町にはいろんな人材が隠れている。SNS 発信で人をコラボすることで子育ての人手不足も補完できる。



後藤　七重さん
（国際ソロプチミスト山辺）

隠れた人材の中には高齢者の存在もあると思う。また、ランドセル購入はかなり高額。ランドセル購入支援があればいい。

サブテーマ② 「女性が元気なまちへ」



小松　麻美さん
（図書ボランティア「てんこもり」）

女性が元気である秘訣は好きなことに集中すること。子どもたちからも元気をもらっている。他の団体とのコラボで元気の相乗効果が生まれる。企画発信支援で各団体をつなげて欲しい。



武田たえ子さん
（山辺町更生保護女性会）

女性の団体だからこそ担えるものがある。活動を理解し、家庭から快く送り出してもらえれば、もっと元気に社会奉仕活動ができると思う。



後藤　一子さん
（国際ソロプチミスト山辺）

女性が元気なまちにするためには、まず自分が元気に輝くこと。町には各方面で活躍している方が多い。つながりを持てれば、もっと輝けると思う。



樋口　和美さん
（山辺町消防団）

現在女性隊は19名。月に一度の例会も時間短縮を図ったことで、ほぼ全員が出席している。無理はせずに、みんな元気に楽しく活動できていると思う。

（紙面の関係上、一部編集して掲載しています）

皆さまから寄せられた声は、山辺町を“ずっと暮らしたいまち”にするために、議会にて議論を重ね「よく聞く」「よく見る」「深く考える」議会を実現してまいります。ご参加いただき、ありがとうございました。



後藤　昌広さん
（山辺町消防団）

山辺町消防団の女性隊は、東南村山地区で１番人数が多く、楽しそうに活動している。子育てしやすい町、女性が元気に楽しめる町を実現して欲しい。



森　雅彦さん
（山辺中学校 PTA）

「家事は女性がすべき」という固定観念を捨てるべき。またPTAでは母親委員会を廃止する傾向にあるが、女性目線の意見を取り入れるためにも、なくすべきではないと感じている。

サブテーマ③ 「議員のなり手不足」



吉田美智子さん
（山辺町更生保護女性会）

町民のために汗をかいている姿を見せて、『議員とは何か』を若い人たちに教えていくことが必要。議員の存在感を示せれば、なり手も出てくると思う。



海野　幸司さん
（山辺ロータリークラブ）

町民も議員自身も町の未来に危機感を覚えていると考える。女性や若者がキーマンとなり、町政に参画しやすい環境作りを進めて、この山辺町を未来に残せる施策を考えてはどうか。

議会報告会出席者名簿

五十音順・敬称略

団　体　名	出席者名
国際ソロプチミスト山辺	後藤　一子　後藤　七重
図書ボランティア「てんこもり」	川村　陽子　小松　麻美　稲村　汐
山辺小学校PTA	渡邊　吉則
山辺中学校PTA	森　雅彦
山辺町更生保護女性会	吉田美智子　武田たえ子
山辺町消防団	後藤　昌広　樋口　和美
山辺町青少年育成推進員	武田　真也　佐藤　光之
山辺町民生委員児童委員協議会	荒木　哲夫
山辺ロータリークラブ	海野　幸司
やまべ学童クラブ	遠藤　恵

第3回 定例会（ていれいかい） 9/8〜9/18

定例会のあらまし

第3回定例会が9月8日から18日までの11日間の会期で開催されました。初日は5人が一般質問を行い、10日には提出議案の審議、令和7年度各会計決算の報告を受け、決算特別委員会を設置し審査を付託しました。

最終日は請願の採決、決算特別委員長からの審査報告を受けて決算を認定したほか、令和8年度補正予算、財産取得に係る議案などを審議し、すべて可決されました。

また、議会活性化特別委員会から中間報告がありました。

令和７年度　一般会計・特別会計総額

107億8739万円 認定

持続可能な社会の実現を目指して

主な事業からみたお金の使い道

安全・安心なまち「住み続けたいまちづくり」に

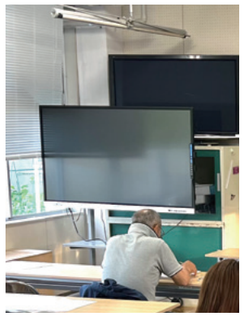
- 災害対応車両（排水ポンプ車）購入に…… **6644** 万円
- 防災備蓄品等整備事業に…… **792** 万円

産業振興で元気なまちに

- やまのべ創業スタートアップ支援に…… **290** 万円
- プレミアム付き商品券事業補助に…… **608** 万円

子どもたちの豊かな生活と環境づくりに

- 保育料負担軽減事業（認可外保育施設含む）に…… **2237** 万円
- 小中学校の給食費支援事業に …… **6159** 万円
- 高校卒業相当までの子育て支援医療給付に…… **7163** 万円
- 小中学校の DX 化機器（電子黒板）等購入に…… **2112** 万円



電子黒板の学習効果に期待

まちの「美力アップ」のさらなる推進に

- 大相撲夏巡業（山辺場所）委託料と運営補助に…… **1047** 万円
- マスメディア等情報発信や SNS 運用委託に…… **739** 万円
- ふるさと応援事業（ふるさと納税関連）に…… **15** 億 **106** 万円



大盛況となった山辺場所

物価高騰から生活を守るために

- 物価高騰対策商品券配布事業に…… **7084** 万円
- 物価高対応子育て応援手当支給事業に…… **3784** 万円

会計別決算明細

会計名		歳入決算額	歳出決算額
一般会計		82億1037万4826円	79億2586万2079円
特別会計	国民健康保険	12億2433万7729円	11億9250万5119円
	介護保険	14億9245万1126円	14億5366万　44円
	後期高齢者医療	2億1841万9254円	2億1537万1154円
合計		111億4558万2935円	107億8739万8396円

公営企業会計決算

会計名	収益的収入	収益的支出
簡易水道事業会計	3695万9720円	3072万4476円
公共下水道事業会計	3億4091万9040円	3億2624万　749円

監査委員報告



遠藤 剛 代表監査委員

令和７年度山辺町決算結果は、総体的に法令・条例及び規則に準拠し処理されており、予算の執行も適正である。

歳入においては、町税収納率が維持されていることを評価し、引き続き滞納対策強化と収納率向上に努められたい。また、返礼品提供事業者と連携し積極的な町の魅力PR等により大幅増となった「ふるさと応援寄附金」の継続的な推進を期待する。歳出においては、PDCA※サイクルを意識した施策の検証と見直しを行いつつ、効率的・効果的な施策展開を通じて、町民参加型の協働のまちづくりの推進に努められたい。

特別会計や公営企業会計については、安定的な運営と経営の健全化に向けた取り組みの推進に努められたい。

財政の健全化判断比率の将来負担比率は令和7年度も「なし」となったが、計画的な基金積み増しや今後の人口規模を見据えた長期的な財政健全化を進め、総合計画や行財政改革大綱の目標を確実に実行して健全な財政運営と財政基盤の確立に努められたい。

※ Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）、この４つを繰り返すことにより継続的に改善していく手法のこと

令和７年度 健全化判断比率及び公営企業の資金不足比率の報告

令和７年度の実質公債費比率（収入に対する借金の返済額の割合）は8.5％で、国が定める早期健全化基準の25％を大きく下回っています。また、公営企業についても資金不足は生じていません。これらのことから、令和７年度の財政状況は、国が定める基準を下回り、健全な財政運営が維持されている状況といえます。

暮らし向上にどう生かされたか
決算特別委員会

チェック
Q&A

議長を除く全議員が所属する決算特別委員会が９月10日に設置され、委員長に鍋倉竹志議員、副委員長に日野一春議員を選出しました。11日、14日は第１分科会（総務文教関係）、15日、16日は第２分科会（厚生産業関係）の審査を行い、18日の本会議にて原案通り認定しました。

厚生産業 第２分科会
町民生活課・保健福祉課・産業課・農業委員会
建設課

Q 平野部のコミュニティバスがデマンドバスになったが、利用者の声は。

A 予約方法が複雑になり、より便利になればいいという声がある。予約方法や拠点など、指定管理者と協議を進め、より便利になるよう進めていく。（町民生活課）

Q 保健福祉センターの空調設備保守点検委託について、管理状況は。

A 保守点検時は問題なかったが、点検後に室外機のガス漏れが発生したところを修繕した。（保健福祉課）

Q 農業の担い手育成支援事業で約 900 万円の補助金がある。今後の町の農業の方向性は。

A 担い手の事業継承は難しくなっているが、やまがた農業支援センターからの研修生や、地域おこし協力隊なども地域に根ざしたいなど、若干の明るいきざしもある。（産業課）


町の農業の未来は

Q ラベンダー園の将来的な構想。その他の花などを植栽することは。

A 大切な観光資源であり、今後、指定管理なども含めて検討し、利活用できるような形を考えていく。（産業課）


盛況だったラベンダー摘み取り

Q やまのべ創業スタートアップ支援補助金。どのような成果があったか。

A 不動産取引業、ニット製品の加工業、菓子製造販売業の合計３件に補助した。（産業課）

Q 鍛冶町２丁目の児童遊園は廃止のはずだが、児童遊園の工事費に『鍛冶町２丁目地内ネットフェンス設置工事』があるのはなぜか。

A 地区民から災害時などに集まる場所が欲しいとの要望があり、線路沿いの町管理の土地を児童遊園の代替地とした。安全のためにネットフェンスを取り付けた。（建設課）

総務文教 第１分科会
総務課・防災対策課・政策推進課・美力発信課
税務課・会計課・教育委員会教育課・議会事務局

Q 閉校となった旧作谷沢小・中学校の管理状況は。

A 定期的な見回りと、年４回ほどグラウンドを含む敷地内の草刈りをしている。校舎は傷みがひどく、利活用は難しいと考えている。（総務課）

Q 山辺町ふるさとづくり事業基金は利子積立のみで動きがないが、今後の計画は。

A ふるさとづくりへの活用を前提としながら、文化会館構想の財源候補と捉えている。ただし、現在具体的な計画はない。（政策推進課）

Q 今後、各ブロック協議会の活動で地域の繋がりを強化するためには。

A 各ブロック協議会の活動に温度差があることは承知している。地域担当職員からのアドバイスなど、さらなる後方支援のサポートを推進していく。また、今年度は町民向けに地域づくりの研修などを開催した。（政策推進課）


地域のきずなづくりが大切

Q 総合防災訓練は防災への関心を高めるとともに、実際に災害が起きた時に町と自主防災組織との連携をもっと強化できるような内容にできないか。

A 昨年度は、多くの町民に興味を持ってもらえるよう中央公園で防災フェスティバルとして開催した。今後は避難所などで受け皿になってくれる自主防災組織の自主性を育てるよう、防災士の協力も得ながら体制を作っていきたい。（防災対策課）


日頃の訓練が大事

Q ふるさと応援寄附金が順調に伸びている。町内への経済効果をどう把握しているか。

A 令和７年度の寄附額 約９億 9,000 万円のうち、約４割が町内の返礼品提供事業者の収益となっているなど、高い経済効果があったと認識している。（美力発信課）

Q 町立学校 DX 化機器等購入費の内容は。

A 電子黒板を 15 台購入。山辺小に６台、相模小に３台、山辺中学校に６台配置した。全部で 51 台必要なので何年かかけて整備したい。（教育課）

町の魅力をさらにアップ

安全・安心なまちに 子育て環境をさらに充実

議案審議

令和８年度一般会計補正予算（第２号）
歳入歳出それぞれ２億3847万円を追加し 総額75億6150万円に

令和８年度　山辺町一般会計補正予算

主な補正内容

- ○最上川さくら回廊植栽事業委託に……**134**万円の増
- ○ふるさと納税事業支援サービス委託に……**1億6081**万円の増
- ○ふるさと納税ポータルサイト使用料に……**2581**万円の増
- ○山辺温泉保養センターの内装レイアウト工事に……**2497**万円の増
- ○保健福祉センター空調設備改修工事の設計業務委託に……**741**万円の増
- ○有害鳥獣被害対策事業（熊対策防護用服購入等）に……**111**万円の増
- ○消防施設整備（防火水槽撤去工事・消火栓工事負担金）に……**1539**万円の増


町内業者が開発した熊対策防護用服

特別会計補正予算

会計名	増減	総額
国民健康保険特別会計	1298万円の増	14億1821万円
介護保険特別会計	3858万円の増	16億8692万円
後期高齢者医療特別会計	302万円の増	2億5850万円

公営企業会計補正予算

会計名		増減	総額
公共下水道事業会計（収益的事業）	収入	10万円の増	3億4780万円
	支出	8万円の増	3億3093万円
公共下水道事業会計（資本的支出）	支出	48万円の減	3億　567万円

※事業実績見込みによります。

条例の制定と一部改正

山辺町子育て支援センターの設置及び管理に関する条例

町立安達峰一郎記念保育所内に設置している山辺町子育て支援センターを、旧大寺小学校に移転することに伴い、事業内容も明文化するものです。（令和８年12月１日から施行）

山辺町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正

人事院規則の一部改正に伴い、官公署出頭休暇の対象範囲を拡大するものです。



財産の取得

○災害用組立トランク型自動ラップ式トイレの購入

防災備蓄品として購入するものです。
契約の相手方
日本防災工業株式会社
山形営業所
取得金額
641万円（税込）


災害時に設置

○町立学校学習者用端末等の購入

GIGAスクール構想により、情報端末機器などを更新するものです。
契約の相手方
NTT東日本株式会社
山形支店
取得金額
7386万円（税込）

請願第３号

請願名	国是の「非核三原則」を堅持し、三原則の一つである「持ち込ませず」を改変しないことを求める請願		
請願者	山辺町革新懇話会　峯田　博		
趣旨	国に対し、国是である非核三原則の堅持を強く促すと共に核兵器に依存しない安全保障政策への転換を求める意見書の提出を求める。		
紹介議員	日野　一春	結果	不採択
理由	非核三原則をはじめとする国の安全保障政策や外交方針は、主権国家として国全体で判断すべき事柄であり、地方議会からの意見表明としての範囲を超えるものであるため。		

未来を見据えた町政を

10月13日に次の内容で政策提言書を町に提出しました。

1. 施設整備に係る基金などは、中長期的な運用計画に基づく実施に努めること。
2. 災害時の備蓄品の配置と要支援者にも配慮した避難訓練などにより防災意識の向上に努めること。
3. 地域課題の解決に向けた相談・情報提供・財政面での行政支援の充実に努めること。
4. 官民連携で観光資源の質を高め「稼げる観光」へつなげる取り組みの推進に努めること。
5. 町営バスについて、運行方法の利便性向上と利用推進に努めること。
6. 山辺温泉保養センターの改装工事後は施設の特性を生かした利用促進と有効活用に努めること。
7. 健康寿命の延伸と介護予防を図るため、健康教室の継続的な充実に努めること。
8. 地域農業の将来を見据えた支援策を講じ、経営の安定と農業振興につながる事業の推進に努めること。
9. 中長期的な計画に基づき必要なインフラへ積極的に投資するなど、将来に向けた確実な整備に努めること。
10. GIGAスクール構想のさらなる充実による学びの質の向上に努めること。

（提言書に則し、わかりやすい文言にして掲載しています）



議長から町長へ提出

一般質問

町政のここはどうする？

町ホームページ
山辺町議会内で
議会中継を
発信中!!

一般質問は、議員が町の行財政や将来に対する考え方などを問い、適切な町政運営を進めているかチェックするものです。山辺町議会では、年４回の定例会で議員が一般質問をしています。

９月の定例議会では、５名の議員が一般質問を行いました。

鍋倉 竹志	交流人口拡大	町を明るく、元気にする新たな交流・集客事業は
鈴木 誠也	観光資源	玉虫湖畔、畑谷城址の観光資源の利活用
村山 幸一	地域づくり	ブロック協議会をどう活性化していくか
竹俣 朋	防災対策	障がい者の命と尊厳を護るために
三浦 正好	危機管理	山辺町の危機管理 屋外作業の安全管理

※一般質問は、一問一答方式ですが、紙面の関係で主な質問と答弁を要約して掲載しています。



定例会のお知らせ

次回の定例会は12月です。
傍聴については、町ホームページをご覧ください。
電話 023-667-1117（議会事務局）

交流人口拡大

町を明るく、元気にする 新たな交流・集客事業は



鍋倉 竹志

（町長）対話を大切に官民連携で推進していく

質問 山辺町には、三社祭、まるごとフェスティバル、まるごと夏祭り、舞米豚まつり、初市など、地域の皆さんが大切に育ててきた祭りやイベントがある。一方、人口減少が進む中、交流人口の拡大につなげるには、ニット、農産物、花卉、食、自然、温泉、歴史・文化など、町の資源を「点」から「線」、さらに「面」へと結びつける取り組みが必要ではないか。

答弁 現在のイベントは、町民の交流の場であるとともに、交流人口の拡大や魅力発信の原動力と捉えている。過去のイベント終了には、資金、人材、後継者不足、内容の固定化など複合的な要因があった。今後も課題を共有しながら情報発信や必要に応じた財政支援など、地域や団体が主体的に取り組める環境づくりに努めていく。

質問 過去の経験について、「なぜ終わったのか」だけでなく、「どうすれば続けられたのか」という視点が必要ではないか。新たな事業では、行政がきっかけをつくり、町民や若い世代、事業者と一緒に育て、町民主体へ引き継ぐ仕組みを考えてはどうか。また、包括連携協定も交流人口拡大につなげられないか。



毎年５月に行われる三社祭（写真は天満神社の様子）

答弁 過去の取り組みは財産として引き継ぎたい。町民との対話を大切にし、住民が主体となって動けるきっかけを行政として考えていく。包括連携協定についても、新たな交流事業の可能性を段階的に検討し、官民連携のもと交流人口の拡大に取り組んでいく。

観光資源

玉虫湖畔、畑谷城址の 観光資源の利活用



鈴木 誠也

（町長）官民連携で観光振興を図っていく

質問 玉虫湖畔は、県内最古の農業用ため池で、昨年遊歩道が整備され湖畔の散策やヘラブナ釣りのスポットとしても親しまれている。今後の玉虫湖畔の利活用は、どう考えているか。

答弁 玉虫湖畔は、春には桜、夏には新緑、秋には紅葉など美しい景観を楽しむ事ができる。玉虫湖畔の魅力づくりの一環として試験的に彼岸花の植栽にも取り組んでおり、観光資源の磨き上げを図っている。観光スポットとして関係機関と連携しながら町の魅力発信や交流人口拡大に取り組んでいく。

質問 畑谷城址を巡る散策路付近での安全対策、環境整備についてどう考えているか。

答弁 随時相談を受けながら、必要に応じて担当部局と連携を図る。

質問 今年４月５日から８月までの畑谷城址への来場者数は138人、北は北海道、南は大分県、山城ファンが来場。今年春に観光に行くべき所にアメリカのメディア雑誌に唯一日本で山形県が選ばれた。観光地としての観光資源について、今後の利活用促進を町はどう考えているか。

答弁 地域の歴史や文化を今に伝える貴重な観光資源であると認識している。町としては活動を支援すると共に観光協会や関係団体と連携しながら地域の魅力発信や地域活性化につなげていきたい。観光資源を磨き上げ、点を線でつなぎ、観光関係団体、民間事業者、町民、行政が一体となり、観光振興を図っていく。



ごへえ宿 案内休憩所



玉虫湖畔の彼岸花の植栽

地域づくり

ブロック協議会を どう活性化していくか



村山 幸一

（町長）自主的に活動できる環境づくりに努めていく

質問 平成27年度に10の「ブロック協議会」が発足して以来、地域コミュニティのつながりがどう変化したと認識しているか。

答弁 人口減少や高齢化の進行、価値観の変化による地域活動を支える担い手の不足など、地域コミュニティを取り巻く環境は大きく変化し、年々環境の厳しさが増していると認識している。

質問 ブロック協議会の自主的な運営を充実・発展させるため、町は地域とどう向き合い、支援を行ってきたか。その成果と課題は。

答弁 ブロック協議会運営に対する助成を行うとともに、防災力の強化、環境美化活動、交流づくりなど地域の課題解決に向けた自主的な事業に対し補助し、さらに職員地域担当制を設け、側面的に支援してきた。

成果としてブロック協議会ごとの多様な事業の取組み、住民同士の協力意識の醸成などが図られたと分析している。しかし、地域コミュニティ組織としての成熟の度合いには差がみられ、活動の取り組み方や進捗に違いがあることが課題である。



地域ぐるみで環境美化活動
（近江地区）

質問 地域活動の担い不足が深刻化している中、住民一人ひとりが地域づくりに参画し、地域への愛着を育み「持続可能なまちづくり」をどう進めていくか。

答弁 今年度、新たな取り組みとして「地域づくりスキルアップ研修会」を開催した。今後も、自主的な地域づくり活動の機運醸成に効果的な研修会開催を検討し、また、地域の声を丁寧に聞き取り、課題を把握した上で必要な支援を提供していきたい。

防災対策

直接避難できる福祉避難所の開設を



竹俣　朋

（町長）まずは指定避難所の底上げを図る

質問 町内の福祉避難所の件数は。

答弁 町管理の施設2件、老人施設4件、幼児施設2件の合計8件。

質問 福祉避難所の開設時期は。

答弁 まずは、通常の指定避難所のバリアフリーや要配慮者のスペースを作ることで全体を底上げする。今後、福祉避難所の先進事例を参考にして検討する。

※福祉避難所とは…障がい者や高齢者などの要配慮者が安心して生活ができる体制を整備した避難所で、現在は二次的で特別な避難所となっている。

質問 2024年の山形県豪災害時、自宅が被災したある知的障がい者の家族は、指定避難所への避難をためらい、近所の方の援助を受けながら農作業小屋で1週間ほど過ごした事例がある。これを受け、山形県内の福祉4団体は、県に直接避難できる福祉避難所の開設を要望した。また、避難所運営などを経験した人は福祉避難所の必要性を痛感している。直接避難できる福祉避難所の開設の考えは。

答弁 各施設の安全確認や人員の確保と、避難された要配慮者の状況を総合的に判断して開設する。

質問 受入れ対象者と人数は。

答弁 要配慮者の要望と福祉避難所の受入れ態勢の調整など、個別の対応が必要なため、事前に示すことはできない。



障がい者などの要配慮者のために、早期の開設を

危機管理

山辺町の危機管理は



三浦　正好

いく（町長）万全の体制で対応して

質問 町は分散型上水道や各戸型浄水装置をどのように把握しているか。

答弁 分散型上水道や各戸型上水道は、災害による上水道の本復旧や人口減少が進む中山間地域などにおける将来の持続可能な水供給のあり方の一つと認識している。

質問 排水ポンプ車はいつ・何処に設置するのか。訓練はしているのか。

答弁 排水ポンプ車は運用要領を策定し、災害時の出動基準や出動要請手順などを定めている。

設置場所については、災害時の状況から総合的に判断する。

災害現場を想定した実動訓練はまだ実施していない。今後、災害協定を結んだ山辺町建設業協会とも連携し、一連の訓練を実施していきたい。

質問 町が管理する敷地内のヒマラヤスギや、のり面上にある腐朽している桜など、倒木の危険性がある植木をどう把握しているか。

答弁 町担当職員や指定管理者が定期的に巡回し、目視などで確認している。倒木の危険性がある場合は、早急に対応している。

屋外作業の安全管理

質問 ラベンダー園で一人作業を見かけたが、急な怪我や病気になった時の対策は。

答弁 産業課職員を含めた複数人での作業を基本としている。熱中症の危険性がある場合には、休息の回数を増やしたり、緊急時に職員と連絡が取れるように、さまざまな対策を講じている。



強風の時、倒木の危険性が

議会活動報告

新しい町への挑戦

町の財産を生かし、うるおうまちづくり

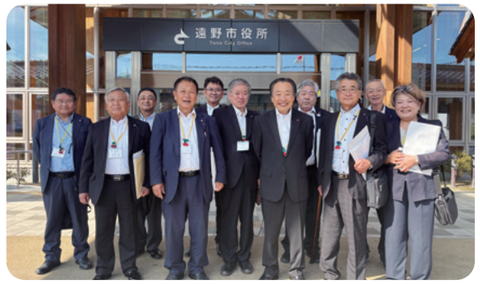
先進事例に学び町行政に生かす

８月４日から５日、町議会行政視察として、岩手県遠野市と宮城県大衡村を訪れ、移住・定住策や議会運営、企業誘致などの先進事例を学びました。

遠野市では、ふるさと遠野定住プラザ「で・くらす遠野」の移住・定住の取り組みについて説明を受けました。行政だけでなく、地域の人や民間団体が力を合わせ、農業や芸能など、地域の魅力や人とのつながりを大切にしながら移住者を受け入れていることが印象に残りました。こうした取り組みが地域おこし協力隊の定住にもつながっており、山辺町でも「ここで暮らしてみたい」と思ってもらえる地域の魅力づくりと、移住者を温かく迎える環境づくりが大切だと感じました。

大衡村では、住民や各種団体との懇談会など、開かれた議会運営について学びました。また、企業誘致による地域経済への効果や、トヨタ自動車関連工場を見学し、震災の経験を生かした危機管理についても学びました。

今回の視察で学んだことを、今後の議会活動や山辺町のより良いまちづくりに生かしてまいります。



移住・定住策を熱く学びました（遠野市）



開かれた議会運営について真剣に聴きました（大衡村議会）

ICTで深まる学び

総務文教常任委員会では、７月２日、タブレットと電子黒板を活用した山辺中学校３学年の理科の授業を視察しました。町では国の GIGA スクール構想を受け、令和３年から児童・生徒１人１台のタブレットを整備しています。授業ではタブレットや電子黒板を効果的に使い、学習内容の理解を深める工夫がされていました。ICT を活用しながら生徒の学びをより深めようとする先生方の姿と、意欲的に授業に取り組む生徒の様子が印象に残る視察となりました。



ICT活用現場を視察しました

より読みやすく

山形県町村議会議長会の広報研修会（議会広報クリニック）が７月 13 日に山形ビッグウイングで行われ、委員会のメンバー５人が参加しました。『やまのべ議会だより』について的確なアドバイスをいただき、また、近隣町村の議会だよりにも“開かれた議会”を感じるコンテンツがたくさんありました。良いところをしっかり取り入れて、次号から役立てていきたいと思っています。アップデートしていく議会だよりをお楽しみください。



近隣町村の議会だよりを参考に

一般質問・活動報告

議会活動報告

議会活性化特別委員会
中間報告

議員のなり手不足と課題解決にむけて

議会活性化特別委員会では、課題解決に向けて協議を重ねてきました。
その結果、町民アンケートの回答も参考にした上で、町の未来のために議員定数は現行どおり、議員報酬は社会情勢の変化からも引き上げが必要との結論に至りました。それらを中間報告として取りまとめ、第３回定例会にて議長へ報告しました。
さらに、９月18日には、同中間報告を基にした「山辺町議会活性化対策に関する要望書」を町へ提出しました。
今後も、当委員会の活動については、議会だよりなどを通して皆さまへお知らせしていきます。

町民アンケートの結果を一部掲載しますので、ご覧ください。

調査設計

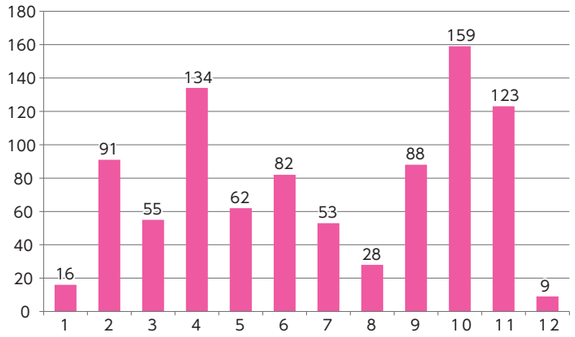
1．調査地域：山辺町全域
2．調査対象：山辺町内在住の18歳以上の男女
3．対象者数：800人
4．抽出方法：無作為に抽出
5．調査項目：22問（自由記述含む）
6．調査時期：令和８年４月
7．調査方法：調査票による本人記入方式
8．配布回収方法：郵送配布･郵送回収

配布・回収結果

配布数	回収数	回収率
800	386	48.25%

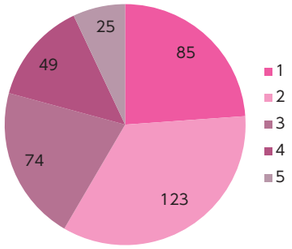
※同アンケート結果を整理した調査報告書については、「山辺町議会」のホームページに掲載します。

全国的に地方議会議員のなり手不足が問題と言われていますが、その原因は何だと思いますか。（該当すべてに○）



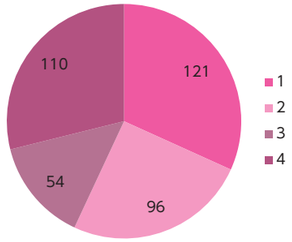
選択肢	回答数
1. 議員定数が少ない	16
2. 議員報酬が少ない	91
3. 家族や周囲の理解が得られない	55
4. 議員と自分の仕事の両立が難しい	134
5. 議員と家事の両立が難しい	62
6. 地域・集落・親族のしがらみがある	82
7. 将来設計ができない	53
8. 厚生年金に加入ができない	28
9. 選挙費用が捻出できない	88
10. 議員の仕事に魅力を感じない	159
11. 町のことや政治に関心がない	123
12. その他	9
合　計	900

もしあなたが町議会議員になるとしたら、議員報酬は月額いくら程度が妥当だと思いますか。（１つに○）



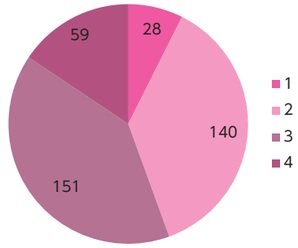
選択肢	回答数	構成比
1. 月額 20 万円～ 25 万円未満	85	23.9%
2. 月額 25 万円～ 30 万円未満	123	34.6%
3. 月額 30 万円～ 35 万未満	74	20.8%
4. 月額 35 万円以上	49	13.8%
5. その他	25	6.9%
合　計	356	100.0%

あなたは、現在の山辺町の人口約１万3,000人に対して、議員定数が12名であることについて、どう感じますか。（１つに○）



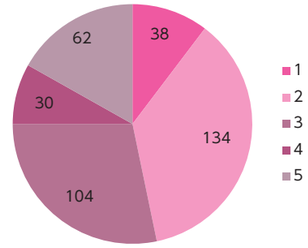
選択肢	回答数	構成比
1. 適当であると思う	121	31.8%
2. 多いと思う	96	25.2%
3. 少ないと思う	54	14.2%
4. わからない	110	28.8%
合　計	381	100.0%

あなたは、議会や議員の活動に関心がありますか。（１つに○）



選択肢	回答数	構成比
1. 関心がある	28	7.4%
2. 少し関心がある	140	37.0%
3. 関心がない	151	39.9%
4. わからない	59	15.7%
合　計	378	100.0%

あなたは、山辺町議会・議員に対し、期待や信頼をしていますか。（１つに○）



選択肢	回答数	構成比
1. 期待し信頼している	38	10.3%
2. どちらかといえば期待し信頼している	134	36.4%
3. どちらかといえば期待も信頼もしていない	104	28.3%
4. 期待も信頼もしていない	30	8.2%
5. わからない	62	16.8%
合　計	368	100.0%

主な活動（令和８年７月～９月）

- ９月定例会（9/8～9/18）
- 議会運営委員会（8/25、9/1）
- 総務文教常任委員会（7/2、8/17、9/8）
- 厚生産業常任委員会（8/18）
- 広報常任委員会（7/13、7/17、9/1）
- 全員協議会（8/25、9/10）
- 議会活性化特別委員会（7/14、8/7、8/25、9/8、9/30）
- 決算特別委員会（9/10、9/11、9/14、9/15、9/16、9/18）
- 山辺町議会議員行政視察（8/4～8/5）
- 未来を話す会（議会報告会）（7/23）
- 例月出納検査（8/24、9/24）
- 町村議会広報研修会（7/13）
- 朝日・山辺両町議会議員協議会役員会（8/31）
- 最上川中部水道企業団議会行政視察（7/1～7/3）
- 広域環境事務組合議員協議会（7/14）





さまざまなイベントにも参加しています